**長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（心得編）**

1/2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 空間デザインの心得 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| （1）港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう[指針Ｐ10～11] | ■心得①　水辺とまちを結びつける軸を通す・人の流れが集中する東西方向に長崎駅 のラッチ外コンコースを貫き、水辺と市街地を結びつける「東西の主軸」をつくる・駅舎によって、港へつながる 「南北の軸」を形成する |  |  |  |
| ■心得②　長崎の新たな焦点をつくる・「円形劇場」のような長崎の特徴的な地形の焦点にふさわしい象徴的な駅をつくる・駅舎、駅前広場、周辺施設について、機能的・景観的に関係性を持たせた空間をつくる |  |  |  |
| ■心得③　長崎の歴史とのつながりをつくる・長崎の有する 歴史を踏まえた空間整備を行う・港町らしい水辺との関係性を重視した空間デザインや演出を行う・これまで 取り組んできた景観行政を理解し積極的に継承する ・ウォーターフロント整備 との一貫性、連続性を持たせた空間をつくる |  |  |  |
| （2）歩くことが楽しくなるまちにしよう[指針Ｐ12～13] | ■心得④　歩行者の回遊を引き出す・場所ごとの魅力にあふれ、親しみやすいヒューマンスケールな設えのある、歩いて楽しい歩行空間をつくる・重層的で広がりのある歩行空間とそのネットワークをつくる |  |  |  |
| ■心得⑤　歩行者にとっての分かりやすさ・利便性・安全性を重視する・公共交通機関相互の結節性を強化する・初めてまちを訪れる人にも分かる交通施設の配置とする・車との交差の少ない公共交通へのアクセスを実現する |  |  |  |
| ■心得⑥　セミパブリックスペースを生かす・公共空間と民有空間の連携・協力によって、ゆとりがあり、親しみやすいヒューマン スケールな設えのある一体的な歩行空間をつくる |  |  |  |
| ■心得⑦　溜まり空間を連鎖させる・人々の“居場所”となる空間をつくる・多様な交流やにぎわいが生まれる空間をつくる |  |  |  |
| （3）眺めを楽しめるまちでいよう[指針Ｐ14～15] | ■心得⑧　長崎港、稲佐山、浦上川等に対する建物等の建て方に配慮する・建物等の建て方は、特に長崎港、稲佐山、浦上川などの周辺環境や日本二十六聖人殉教地などの歴史的資源への眺望に配慮する・駅前広場から長崎らしさのひとつでもある斜面住宅地への眺望に配慮する・稲佐山や立山などの視点場からの見え方に配慮する ・建築設備などの工作物も、周辺の視点場からの見え方に配慮する |  |  |  |
| ■心得⑨　風景との調和に配慮する・建物の外観や工作物、屋外広告物等は、長崎駅周辺エリアにふさわしい質の高いデザイン　を目指す・建物の中高層部の色彩については、周囲の風景と調和するように明度が高く、彩度を抑えた色使いとする（低層部は心得④〜⑦に従い場所ごとの魅力にふさわしい色使いにする）・建築設備や屋外広告物などの工作物については、周辺の視点場からの見え方や風景との　調和に配慮した配置・形状や色使いとする |  |  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「空間デザインの心得」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。

 **長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（心得編）**

２/2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 空間デザインの心得 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| （4）長崎情緒が感じられるまちをつくろう[指針Ｐ16～17] | ■心得⑩　長崎らしい材料・技術を用いる・道路の舗装、建物の低層部などの人に近い場所には、長崎情緒をよく伝える天然素材を積極的にとりいれる・駅舎をはじめとするシンボル的な施設等には、常に新しいことにチャレンジしてきた長崎の歴史を継承し、新素材や新技術を積極的に活用する |  |  |  |
| ■心得⑪　駅を取り巻く周辺環境に呼応した形を考える・歩行者が快適に歩いたり休んだりできるように、木陰や風の通り道をつくる・風の流れが目に見える工夫をする（樹木・水面など）・場所ごとの魅力を引き立てる樹種を選定する・駅前広場や多目的広場は、晴天時には陽光と日陰が、雨天時には雨の風景と雨をよけられる空間がバランスよく確保されるようにつくる |  |  |  |
| （5）活動で長崎らしさを演出しよう[指針Ｐ18～19] | ■心得⑫　長崎の四季を彩る祭りなどを演出する・季節を感じさせる祭りなどの活動で、年間を通して駅周辺を長崎らしく彩る・祭りや日常的なイベントなどの活動ができる空間を実現する・市内で催される様々な市民活動の情報発信ができるようにする |  |  |  |
| ■心得⑬　世界新三大夜景にふさわしい光を演出する ・光の演出で、長崎の夜景をさらに魅力的にする・稲佐山などの視点場や山腹からの夜景の見え方に配慮する*※(参考計画)環長崎港夜間景観向上基本計画(長崎市計画)に沿った計画にする* |  |  |  |
| ■［自由記載］「空間デザインの心得」の内容以外で、デザインを行う上で独自で工夫した事柄を、ご自由にお書きください。 | 専門部会としての考え ※ |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「空間デザインの心得」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。

**長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（作法編）**

1/1

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| デザインの作法集 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| ４．建物のボリュームと構成のデザイン作法[指針Ｐ34] | ■（作法Ｃ-１）建物のボリューム感を低減する工夫をする |  |  |  |
| ５．歩行空間と建物低層部のデザイン作法[指針Ｐ35～38] | ■（作法Ｄ-１）敷地境界付近のつくり方 |  |  |  |
| ■（作法Ｄ-２）セミパブリックスペースのつくり方 |  |  |  |
| ■（作法Ｄ-３）溜まり空間のつくり方 |  |  |  |
| ■（作法Ｄ-４）建物内通路のつくり方 |  |  |  |
| ６．建築設備・工作物のデザイン作法[指針Ｐ39] | ■（作法Ｅ-１）建築設備や工作物のデザイン |  |  |  |
| ７．屋外広告物等のデザイン作法[指針Ｐ40] | ■（作法Ｆ-１）屋外広告物等のデザインやマナー　　*※ 長崎市屋外広告物条例の許可基準を満たすものであるか* |  |  |  |
| ８．仮設建築物・工事仮囲い等のデザイン 作法[指針Ｐ41] | ■（作法Ｇ-１）仮設建築物や仮囲い等にも配慮し、期待を高める工夫をする |  |  |  |
| ■［自由記載］「デザインの作法集」の内容以外で、デザインを行う上で独自で工夫した事柄を、ご自由にお書きください。 | 専門部会としての考え ※ |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「デザインの作法集」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より、鉄道施設関連・駅前交通広場についての作法を除く、各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。**長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（心得編）**　【記載例】

1/2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 空間デザインの心得 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| （1）港・山・川のある風景とまちの歴史を尊重しよう[指針Ｐ10～11] | ■心得①　水辺とまちを結びつける軸を通す・人の流れが集中する東西方向に長崎駅 のラッチ外コンコースを貫き、水辺と市街地を結びつける「東西の主軸」をつくる・駅舎によって、港へつながる 「南北の軸」を形成する | ・長崎駅から他の公共交通への結節性を高めるため、◯◯（※）を行った。※東西軸もしくは南北軸を形成するための対応を具体的に記載してください |  |  |
| ■心得②　長崎の新たな焦点をつくる・「円形劇場」のような長崎の特徴的な地形の焦点にふさわしい象徴的な駅をつくる・駅舎、駅前広場、周辺施設について、機能的・景観的に関係性を持たせた空間をつくる | ・長崎港、稲佐山、浦上川などの風景と調和させるため、◯◯に配慮した。・周辺施設と一体的な空間を創るため◯◯に配慮した。 |  |  |
| ■心得③　長崎の歴史とのつながりをつくる・長崎の有する 歴史を踏まえた空間整備を行う・港町らしい水辺との関係性を重視した空間デザインや演出を行う・これまで 取り組んできた景観行政を理解し積極的に継承する ・ウォーターフロント整備 との一貫性、連続性を持たせた空間をつくる | ・◯◯(建物等)は水辺とのつながりを大切にするため、オープンな構成の店舗とした。・◯◯◯(建物等)は長崎の歴史を鑑みて、◯◯のデザインとした。 |  |  |
| （2）歩くことが楽しくなるまちにしよう[指針Ｐ12～13] | ■心得④　歩行者の回遊を引き出す・場所ごとの魅力にあふれ、親しみやすいヒューマンスケールな設えのある、歩いて楽しい歩行空間をつくる・重層的で広がりのある歩行空間とそのネットワークをつくる | ・自由に通行できる建物内通路を確保することで、歩行者の回遊性を向上させた。・商業施設を低層部に配置することで、駅周辺の歩行者の回遊性を向上させた。 |  |  |
| ■心得⑤　歩行者にとっての分かりやすさ・利便性・安全性を重視する・公共交通機関相互の結節性を強化する・初めてまちを訪れる人にも分かる交通施設の配置とする・車との交差の少ない公共交通へのアクセスを実現する | ・案内サインのカラーを統一することにより、駅に降り立った来訪者に向けて分かりやすくした。・広場の整備にあたり、車いす利用者も広場でイベントを楽しめるように道路をデザインした。 |  |  |
| ■心得⑥　セミパブリックスペースを生かす・公共空間と民有空間の連携・協力によって、ゆとりがあり、親しみやすいヒューマン スケールな設えのある一体的な歩行空間をつくる | ・セミパブリックスペースにオープンカフェを出店することにより、歩行空間と一体となって、にぎわいや親しみやすい雰囲気を提供した。 |  |  |
| ■心得⑦　溜まり空間を連鎖させる・人々の“居場所”となる空間をつくる・多様な交流やにぎわいが生まれる空間をつくる | ・敷地内に◯◯（ベンチ、植栽など）を配置することで、溜まり空間を演出した。・◯◯◯（場所）に、◯◯◯（商業施設など）を設けることで、つながりのあるにぎわいを演出した。 |  |  |
| （3）眺めを楽しめるまちでいよう[指針Ｐ14～15] | ■心得⑧　長崎港、稲佐山、浦上川等に対する建物等の建て方に配慮する・建物等の建て方は、特に長崎港、稲佐山、浦上川などの周辺環境や日本二十六聖人殉教地などの歴史的資源への眺望に配慮する・駅前広場から長崎らしさのひとつでもある斜面住宅地への眺望に配慮する・稲佐山や立山などの視点場からの見え方に配慮する ・建築設備などの工作物も、周辺の視点場からの見え方に配慮する | ・建築設備の色彩をベランダ部の外壁色彩と同じものにすることで、建築設備を目立たせないようにした。・◯◯(建物等)は、駅周辺から◯◯◯(女神大橋、長崎港、稲佐山等)を眺めることが出来るように視界を遮らないような配置とした。 |  |  |
| ■心得⑨　風景との調和に配慮する・建物の外観や工作物、屋外広告物等は、長崎駅周辺エリアにふさわしい質の高いデザイン　を目指す・建物の中高層部の色彩については、周囲の風景と調和するように明度が高く、彩度を抑えた色使いとする（低層部は心得④〜⑦に従い場所ごとの魅力にふさわしい色使いにする）・建築設備や屋外広告物などの工作物については、周辺の視点場からの見え方や風景との　調和に配慮した配置・形状や色使いとする | ・壁面と同系・低彩度色の自動販売機を設置することで、建物に溶け込み目立たなくした。・建物の中高層部は、周囲の風景と調和するよう明度を◯◯(マンセル値)、彩度を◯◯(マンセル値)とした。 |  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「空間デザインの心得」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。

 **長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（心得編）**　【記載例】

２/2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 空間デザインの心得 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| （4）長崎情緒が感じられるまちをつくろう[指針Ｐ16～17] | ■心得⑩　長崎らしい材料・技術を用いる・道路の舗装、建物の低層部などの人に近い場所には、長崎情緒をよく伝える天然素材を積極的にとりいれる・駅舎をはじめとするシンボル的な施設等には、常に新しいことにチャレンジしてきた長崎の歴史を継承し、新素材や新技術を積極的に活用する | ・◯◯(建物等)に、長崎県産である◯◯(素材、技術等)を取り入れた。 |  |  |
| ■心得⑪　駅を取り巻く周辺環境に呼応した形を考える・歩行者が快適に歩いたり休んだりできるように、木陰や風の通り道をつくる・風の流れが目に見える工夫をする（樹木・水面など）・場所ごとの魅力を引き立てる樹種を選定する・駅前広場や多目的広場は、晴天時には陽光と日陰が、雨天時には雨の風景と雨をよけられる空間がバランスよく確保されるようにつくる | ・エントランスには、緑陰となる常緑樹である◯◯◯を選定し、歩行者専用通路には、海辺に強い常緑樹である◯◯◯を選定した。・建物の前面に水盤を配置することで、風が吹くと体感温度が下がるだけでなく、目にも涼やかな印象を与える工夫をした。 |  |  |
| （5）活動で長崎らしさを演出しよう[指針Ｐ18～19] | ■心得⑫　長崎の四季を彩る祭りなどを演出する・季節を感じさせる祭りなどの活動で、年間を通して駅周辺を長崎らしく彩る・祭りや日常的なイベントなどの活動ができる空間を実現する・市内で催される様々な市民活動の情報発信ができるようにする | ・イベントを周知するためのバナーを一定間隔で効果的に配置した。・イベント用に、給排水設備や電源設備を敷地内に設置した。  |  |  |
| ■心得⑬　世界新三大夜景にふさわしい光を演出する ・光の演出で、長崎の夜景をさらに魅力的にする・稲佐山などの視点場や山腹からの夜景の見え方に配慮する*※(参考計画)環長崎港夜間景観向上基本計画(長崎市計画)に沿った計画にする* | *・環長崎港夜間向上基本計画に沿って、◯◯の色温度を3,000Kとした。* |  |  |
| ■［自由記載］「空間デザインの心得」の内容以外で、デザインを行う上で独自で工夫した事柄を、ご自由にお書きください。 | 専門部会としての考え ※ |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「空間デザインの心得」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。

**長崎駅周辺エリアデザイン指針に関するチェックリスト（作法編）**　【記載例】

1/1

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| デザインの作法集 | 具体的な対応状況 | 専門部会としての考え ※ | 適合状況 ※ |
| ４．建物のボリュームと構成のデザイン作法[指針Ｐ34] | ■（作法Ｃ-１）建物のボリューム感を低減する工夫をする | ・(計画建物が)ボリューム感のある建物であるため、道路からセットバックを行い、1階を商業施設、2階をオープンスペースにすることで道路空間への圧迫感を低減させた。 |  |  |
| ５．歩行空間と建物低層部のデザイン作法[指針Ｐ35～38] | ■（作法Ｄ-１）敷地境界付近のつくり方 | ・一体的なまちなみ形成となるように、隣接する建物の軒の高さや色彩に配慮するよう工夫した。 |  |  |
| ■（作法Ｄ-２）セミパブリックスペースのつくり方 | ・植栽によって歩道と公有地を緩やかに区切ることでオープンカフェや休憩するための空間をつくった。 |  |  |
| ■（作法Ｄ-３）溜まり空間のつくり方 | ・利用者の憩える溜まり空間をつくるため、数本のまとまった木を植栽することで木陰を確保し、そこにベンチを配置した。 |  |  |
| ■（作法Ｄ-４）建物内通路のつくり方 | ・建物内に誰もが自由に通行できる通路を確保することで、歩行者の回遊性を向上させた。 |  |  |
| ６．建築設備・工作物のデザイン作法[指針Ｐ39] | ■（作法Ｅ-１）建築設備や工作物のデザイン | ・室外機など、建物の外にある設備については歩行者から見えなくするため、縦格子状の目隠しを施した。 |  |  |
| ７．屋外広告物等のデザイン作法[指針Ｐ40] | ■（作法Ｆ-１）屋外広告物等のデザインやマナー　　*※ 長崎市屋外広告物条例の許可基準を満たすものであるか* | ・長崎市屋外広告物条例の許可基準を満たすものとし、計画広告物が突出しないように、高彩度色や色数を抑えることで、エリア全体のデザインの統一感を心掛けた。 |  |  |
| ８．仮設建築物・工事仮囲い等のデザイン 作法[指針Ｐ41] | ■（作法Ｇ-１）仮設建築物や仮囲い等にも配慮し、期待を高める工夫をする | ・そばを通る歩行者が工事現場を覗けるよう小窓を設けた。また、事業の完成予想図などを掲示し、通行者に期待感を高めるような情報発信を行った。 |  |  |
| ■［自由記載］「デザインの作法集」の内容以外で、デザインを行う上で独自で工夫した事柄を、ご自由にお書きください。 | 専門部会としての考え ※ |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

《各項目説明 及び 記入上の注意》

１.「デザインの作法集」欄：長崎駅周辺エリアデザイン指針より、鉄道施設関連・駅前交通広場についての作法を除く、各心得を掲載しています。

２.「具体的な対応状況」欄：デザインを行う上でご配慮いただいた事項について、具体的に記載してください。

３.「■自由記載」欄：デザインを行う上で独自で工夫した点を、項目ごとに記載してください。欄が不足する場合は追加してください。

４. ※印のついている欄は記入しないでください。